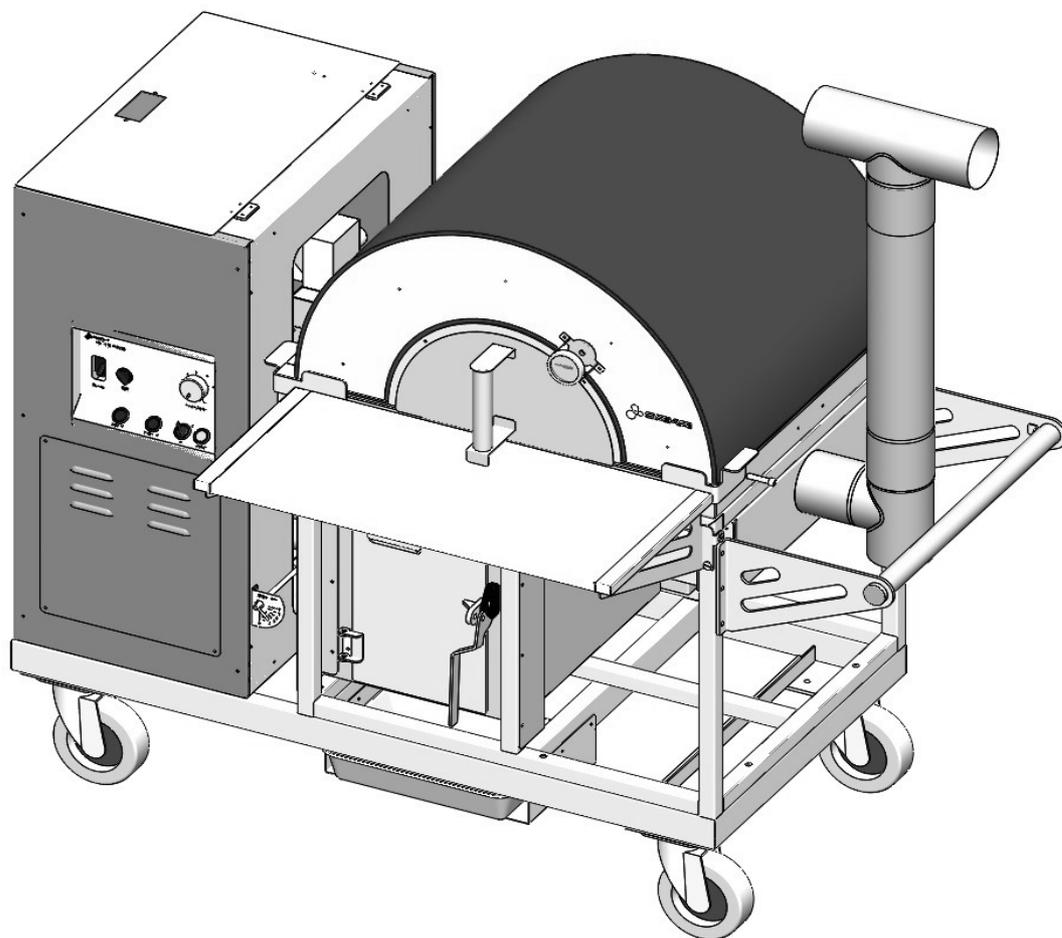




# ペレット窯 PGY16 取扱説明書

このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
正しくお使いいただくために、ご使用前に本書をお読みください。  
ご一読後も、お使いになる方がいつでも確認できる所に大切に保管してください。



# 1.安全にご使用いただくために

## ⚠ 火災防止の注意

### ⊘ 使用燃料は木質ペレット以外厳禁

燃料タンク内には木質ペレット以外の固体燃料やガソリンなどの液体燃料を絶対に入れないでください。火災の原因になります。

### ⊘ 人のいない場所では使用しない

ペレット窯は調理用として作られたものですので、適した場所でご使用ください。

### ⊘ 燃焼炉扉開放厳禁

着火後は燃焼炉扉が確実に閉められていることを確認してください。燃焼中、外れ・すき間があると排ガスや炎が漏れて火災が発生するおそれがあります。

### ⊘ 衣類の乾燥厳禁

ペレット窯付近で衣類を乾かさないでください。衣類等がペレット窯の熱で燃え、火災となります。

### ⊘ 可燃物近接禁止

調理に関わらない燃えやすいものを近づけないでください。火災が発生するおそれがあります。

### ⊘ 水かけ・水濡れ厳禁

ドーム・燃焼炉・タンク部等に水をかけないでください。漏電ややけどをするおそれがあります。

### ⊘ スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットコンロ用のボンベなどをペレット窯付近に放置しないでください。熱で缶の圧力があがり、爆発する危険性があります。

### ⊘ 寄りかかったり、物をのせないで

機器の上ののったり、寄りかかったりしないでください。機器の故障ややけどのおそれがあります。機器の上に水を入れたものなどを置かないでください。水がかかると漏電や故障のおそれがあります。

### ⊘ 化学薬品を使用する場所では使用しない

クリーニング店、美容院など化学薬品を使用する場所では、使用しないでください。化学薬品などの影響により異常燃焼や故障の原因になります。

### ⊘ 煙突付近の可燃物接触禁止

煙突近くに、灯油や可燃物など引火のおそれのあるものを置かないでください。火災のおそれがあります。ガスボンベや灯油タンクが排気出口周辺にある場合は各市町村の火災予防条例に従ってください。

# 1.安全にご使用いただくために

## ⚠ やけど・けが防止の注意

### 🚫 高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部(燃焼炉や煙突、ドーム、テーブル、枠組など)に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。

### 🚫 スパイラル部接触厳禁

燃料タンク底部のスパイラル部には絶対に手を触れないでください。けがをするおそれがあります。

### 🚫 ドーム内部へ手を入れない

食材などをこぼした際に慌てて、ドーム内部に手を入れないでください。やけどのおそれがあります。ピールなどで除去してください。

### ⚠ やけどをしてしまったら

速やかに流水で冷やしてください。  
必ず冷やしてから  
形成外科や皮膚科を受診してください。

## ⚠ 電源についての注意

### 🚫 電源の接続

電源は適正配線された単相100Vのコンセント以外は使用しないでください。発熱・発火の原因になります。電源コードは途中で分岐・接続したり、他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。発熱・発火の原因になります。

### ⚠ 電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。火災の原因になります。濡れた手での抜き差しはしないでください。感電の原因になります。

### ⚠ 電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ホコリ及び金属物を除去してください。ホコリがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。

### 🚫 電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりしないでください。また、電源プラグを抜くときはコードを持って引き抜かないでください。火災や感電の原因になります。

### 🕒 長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないとき又は保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や予想しない事故の原因になります。

### 🚫 本体内部の電源他用禁止

本体内部に電源がありますが、ここから電源を取ると、10Aのブレーカーが作動する場合がありますので絶対におやめください。

## ⚠ お手入れ時の注意

### ⚠ 完全に冷えてから

必ず完全に冷えてからお手入れを行ってください。やけどをするおそれがあります。

### 🚫 研磨材を使わない

研磨材は使わないでください。傷がつくおそれがあります。

### 🚫 水をかけないでください。

ドーム・燃焼炉・タンク部等に水をかけないでください。漏電ややけどをするおそれがあります。

# 1.安全にご使用いただくために

## ⚠ 異常燃焼による事故・故障防止の注意

### ⊘ 燃焼炉扉・燃料タンクふた開放厳禁

運転中は絶対に扉を開けないでください。また、燃料タンクふたをあけたまま運転しないでください。異物混入の可能性があり危険です。

### ⊘ 煙突先端には金網などをつけない

煙突先端には、虫よけのための金網などは付けないでください。排気の妨げになり異常燃焼を起こす可能性があり危険です。

### ⚠ かん合部のはずれ危険

燃焼炉扉や燃料タンクふたなどが確実に設置されているか確認してください。外れ・すき間があると異物混入のおそれがあり危険です。

### ⊘ 異常時使用禁止

万一異常を感じたときは、使用しないでください。異常燃焼のおそれがあります。

### ⊘ 煙突先端閉そく危険

煙突先端の周りが雪でふさがれたままで使用しないでください。ふさがれているときは除雪してください。また、板などによる「雪囲い」は吸気の妨げになるのでおやめください。閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

### ⊘ 分解修理の禁止

故障・破損したら使用しないでください。不完全な修理は危険です。

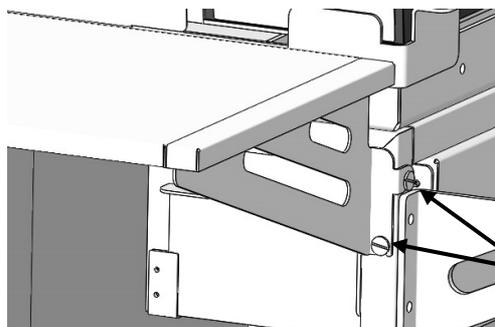
### ⊘ 煙突外れ危険

煙突が外れたままの状態で使用しないでください。外れていると運転中に排ガスが漏れて危険です。

## ⚠ 保管時の注意

- ・保管時は雨や雪にあたらぬ場所で保管ください。雨や雪によって漏電を起こす可能性があります。
- ・湿気のないところ、夜露が発生しないところで保管してください。
- ・長期間ご使用しない場合は、燃料タンク内、ペレット送り部のペレットを空にしてください。残ったペレットや粉が水分を吸い、内部のサビやペレット送り部の故障の原因となります。(P7参照)

**テーブルの脱着** テーブルはテーブルステー2本で固定しています。脱着可能です。

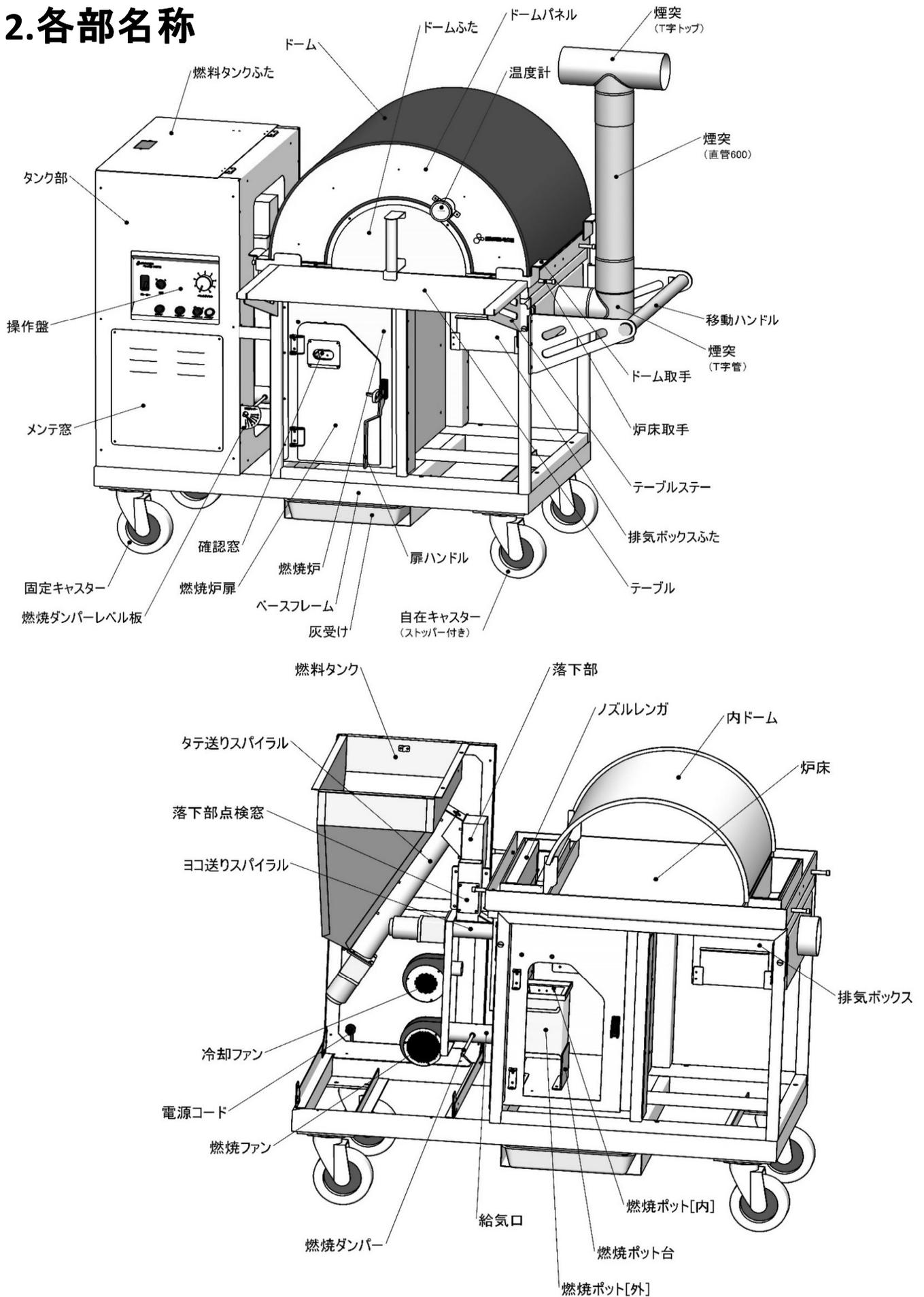


(取付方法)

- ① テーブルステーのカギ部分を、本体ステンネジ部分(2か所)に引っかけて固定する。(左右同様)
- ② テーブルをテーブルステーに上からはめるように押し、固定する。

テーブルステーを引っかける2か所

## 2.各部名称



## 3.ご使用方法

**使用前確認** ※上から順番に行ってください。

### 【状態確認】

- ①自在キャスターのストッパーをかけます。(オンにする)
- ②電源プラグをコンセントに差し込みます。(本体からコンセントまでの延長コードを用意してください)
- ③ブレーカーを入の状態にします。
- ④燃料タンク内にペレットを入れます。
- ⑤ドーム内側に付着したスス・灰を付属の掃除用ほうきで払い、炉床に落ちたスス・灰を払います。
- ⑥灰受けを引出し、燃焼炉扉を開き、燃焼炉内の掃除します。
- ⑦燃焼ポット[内・外]の灰を取り除きます。掃除後ガタツキがないよう、しっかりセットします。
- ⑧燃焼炉扉の確認窓ガラス部分の内側・外側を拭きます。掃除後、灰受けを戻します。

### 【電源を入れての確認】

- ⑨電源を入にして、電源ランプ・ヨコ送りランプ点灯するか、ファンが動いているか(風や音で)確認します。
- ⑩燃焼炉扉を開け、ヨコ送りスパイラルが回転しているか目視で確認します。
- ⑪ペレットスイッチを入にし(ペレットランプ点灯)、ペレットダイヤルを「8」にあわせて、ペレットが出てくるか確認します。  
※ペレットが出てくるまで約1分程度かかります。
- ⑫ペレットスイッチを切にします。(ペレットランプ消灯)
- ⑬ペレットダイヤルを「0」にします。

### 【使用前確認終了後】

- ⑭電源を切にします。(電源ランプ・ヨコ送りランプ消灯)
- ⑮燃焼ダンパーを「0」にします。

## 着火

- ①ペレットひと握りを燃焼ポット[内]に入れます。
- ②着火材に火を点け、火がなじんだら燃焼ポット[内]に投入します。
- ③電源を入にします。(電源ランプ(青色)・ヨコ送りランプ(青色)点灯)
- ④ペレットスイッチを入にします。(ペレットランプ(オレンジ色)点灯)
- ⑤ペレットダイヤルを少し右へ回し、少量のペレットを連続投入させます。  
(着火時に多少の白煙は発生します。ドームふたを閉めることで、そこからの煙を軽減できます。)
- ⑥炎が大きくなってきたら、ペレットダイヤルを右に回し火力を上げます。
- ⑦火力に合わせ、燃焼ダンパーを開け給気量を合わせます。
- ⑧燃焼炉扉を閉めます。

## 消火

- ①ペレットスイッチを切にし(ペレットランプ消灯)、ペレットダイヤルを「0」にします。
- ②温度計の温度が100℃より下がったことを確認したら電源を切にします。(電源ランプ・ヨコ送りランプ消灯)

## 火力調整

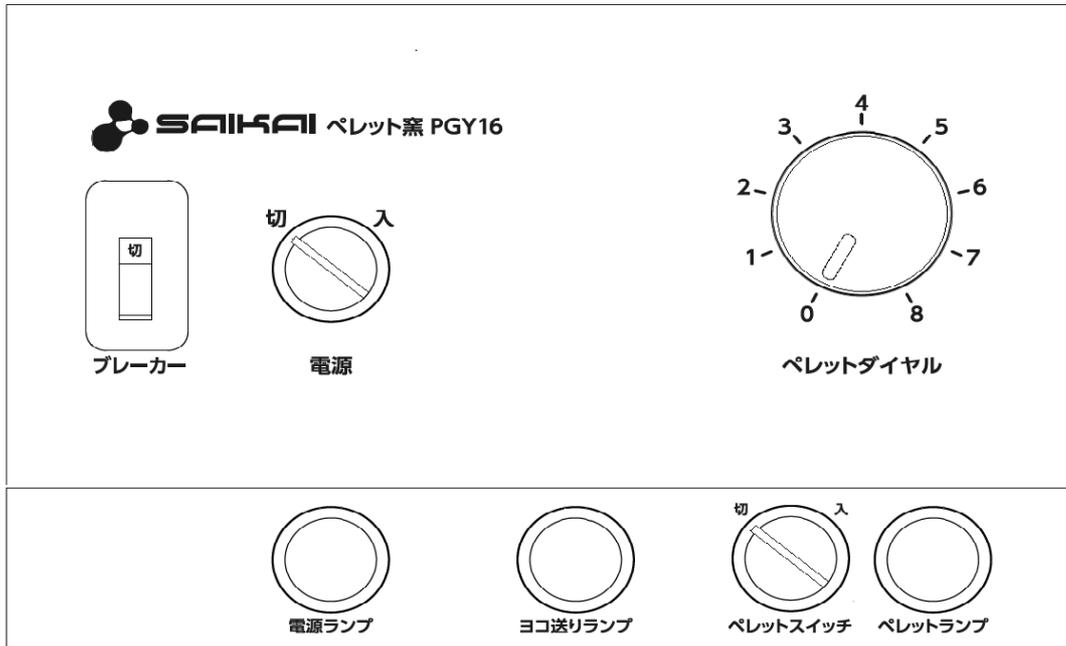
火力(温度)の調整はペレットダイヤルで行ってください。

ペレットダイヤルを右に回していくと、送り出す量が多くなります。(送り出す量はペレットによって異なります。)

※ペレットスイッチを入にしないとペレットは供給されません。

# 3.ご使用方法

## 操作盤



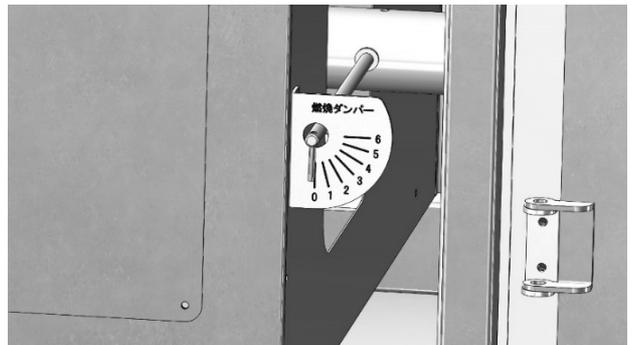
電源スイッチ	スイッチを入にすると、電源ランプ(青色)・ヨコ送りランプ(青色)が点灯し、燃焼ファン、冷却ファン、ヨコ送りスパイラルが作動します。
電源ランプ(青色)	電源の入・切で、点灯・消灯します。
ヨコ送りランプ(青色)	電源の入・切で、点灯・消灯します。
ペレットスイッチ	スイッチを入にするとペレットランプ(オレンジ色)が点灯し、ペレットダイヤルの操作ができます。
ペレットランプ(オレンジ色)	ペレットスイッチを入・切で、点灯・消灯します。
ペレットダイヤル	タテ送りスパイラルで、ペレット供給量を無段階で調整します。 *電源スイッチを入にしないと作動しません。

※燃焼ファン、冷却ファン、ヨコ送りスパイラルの速度は一定です。

## 給気調整

ペレット投入量に合わせて燃焼ダンパーレバーで調整してください。  
使用中多少は火の粉がドーム開口部から出てきます。(異常ではありません。)  
比重の軽いペレットや、給気量が多いとドーム開口部からより火の粉が多く出てきます。

※レバーを上にあげていくほど、ダンパーは開き、給気量が多くなります。  
※「0」に合わせても完全には閉まりません。



## 3.ご使用方法

### 燃焼中確認

- ・燃焼炉扉の確認窓で炎が立ち消えていないか確認します。  
⇒立ち消えていたら、消火作業後、再着火してください。
- ・排気出口から黒煙や白煙が出続けていないか確認します。  
⇒ペレット投入量、給気量の調整を行ってください。



調整を行っても、黒煙や白煙がおさまらない場合は、使用を中止してください。  
不具合、故障も考えられます。販売店へご連絡ください。

- ・燃料タンク内に十分なペレットがあるか確認します。
- ・炉内温度を上げたい時は、ドームふたを閉めます。
- ・炉内は温度差があります。調理時、温度差を利用して調理ください。
- ・付属のピザピール等を使用して、炉内調理を行ってください。絶対に素手を入れしないでください
- ・炉床にスス・灰が落ちてきたら、付属のピザピール等を使用して、取り除いてください。



・テーブルに重量物を置かないでください。また手をついて体重をかけたりしないでください。  
テーブル上部もかなり高温になります。やけどに注意してください。  
・燃焼中は、絶対にドーム内部に素手を入れしないでください。やけどのおそれがあります。  
革手装着する等やけどをしないよう保護してください。

## 4.メンテナンス



必ず冷めている状態、電源が入っていない状態で行ってください。

### 毎着火時

- ・燃焼ポット[内]の灰・ススを捨て、燃焼炉扉のガラスの内側・外側を濡れぞうきんで拭いてください。
- ・ドーム内側に付着したスス・サビを付属の掃除用ほうきで払ってください。
- ・炉床の灰を取り除いてください。

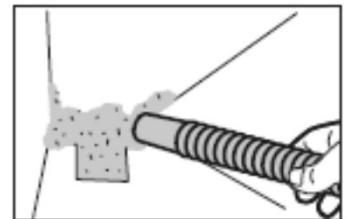
### 月1・2回程度

- ・排気ボックス、灰受けに灰がたまっていたら取り除いてください。
- ・燃料タンク底部分にたまった粉を取り除いてください。  
(燃料タンク内粉除去方法)  
燃料タンク内のペレットを手ヤスコップ等である程度取り除いてから、たまっている粉を集塵機で吸い取ってください。
- ・煙突に付着しているススを取り除いてください。  
(煙突掃除方法)煙突T字管下部分のキャップを外してブラシ等で掃除してください。

### 長期間保管前

- ・燃焼炉内、ドーム内、煙突すべての箇所を灰・ススを取り除いてください。(上記参照)
- ・燃料タンク内、ペレット送り部のペレットを空にしてください。  
(ペレットを空にする方法)

- ① 燃料タンク内のペレットをある程度取り出してください。
- ② 電源スイッチ、ペレットスイッチを入にして、ペレットダイヤルを「8」にしてください。  
\*ペレット送り部からペレットを取り除く作業です。  
ペレット送り部のペレットが燃料タンク底部分、燃焼ポット[内]に落ちてきます。
- ③ ペレットが落ちてこなくなったら、  
ペレットダイヤルを「0」、ペレットスイッチ、電源スイッチを切りにします。
- ④ 落ちてきたペレット、粉を集塵機で吸い取ってください。



手や集塵機をペレット送り部スパイラルに挟まない(触れない)ように注意してください。

①④作業時は電源を切にした状態で行ってください。



## 6.故障・異常の見分け方と処置方法

### Q1.着火しない、着火時に煙が充満する

**① 燃焼ポット[内・外]はしっかりセットされていますか？**

燃焼ポット[内]の穴が詰まっていますか？ たまった灰・ススを取り除いてください。  
また燃焼ポット[外]が正しくセットされていないと燃焼空気を正しく送れず、着火できなくなります。  
冷めてから正しくセットしなおしてください。

**② 着火時のペレット投入量が多くありませんか？**

着火時に、炎が安定する前にペレットの投入量が多いと着火できない、もしくはいぶし燃焼となり多量の白煙が出ます。着火時はペレット投入量を少なめに調整してください。

**③ 給気量は正しいですか？**

着火時に給気量が多すぎると、ペレットが投入する前に種火が燃え尽きてしまうことがあります。  
着火時は燃焼状態を確認し、燃焼ダンパーレバーで給気量を調整してください。(P5.着火⑦参照)

### Q2.ペレットが落ちてこない

**① 燃料タンク内に粉が溜まっていますか？**

ペレットの粉が燃料タンクの下にたまってくると、ペレットをすくいあげることができなくなる場合があります。  
燃料タンク底部分にたまっている粉を取り除いてください。

**② ペレットを燃料タンクに入れたばかりではありませんか？**

初めてのご使用時やペレットを燃料タンクにいれたばかりの時は、タテ送りスパイラル部に、ペレットが充てんされるまで、約10分ほど時間がかかります。

**③ 燃料タンク内に空洞ができていませんか？**

長めのペレットをご使用の場合、燃料タンク内で空洞ができてしまうことがあります。  
燃料タンク内のペレットを上から押して、空洞をくずしてください。

**④ 燃料タンク内の残量が少なくなっていますか？**

燃料送り機構の性質上、タンク内のペレットを全量送り出すことができません。残量が空に近い場合、ペレットが落ちてこなくなる場合があります。ペレットを補充してください。

### Q3.運転中に消火(立ち消え)した

**① ペレットの投入量が少なすぎではありませんか？**

ご使用になるペレットによっては送り出す量が異なります。  
ダイヤルの位置にこだわらず、燃焼状態や温度計を確認しながら、火力調節してください。

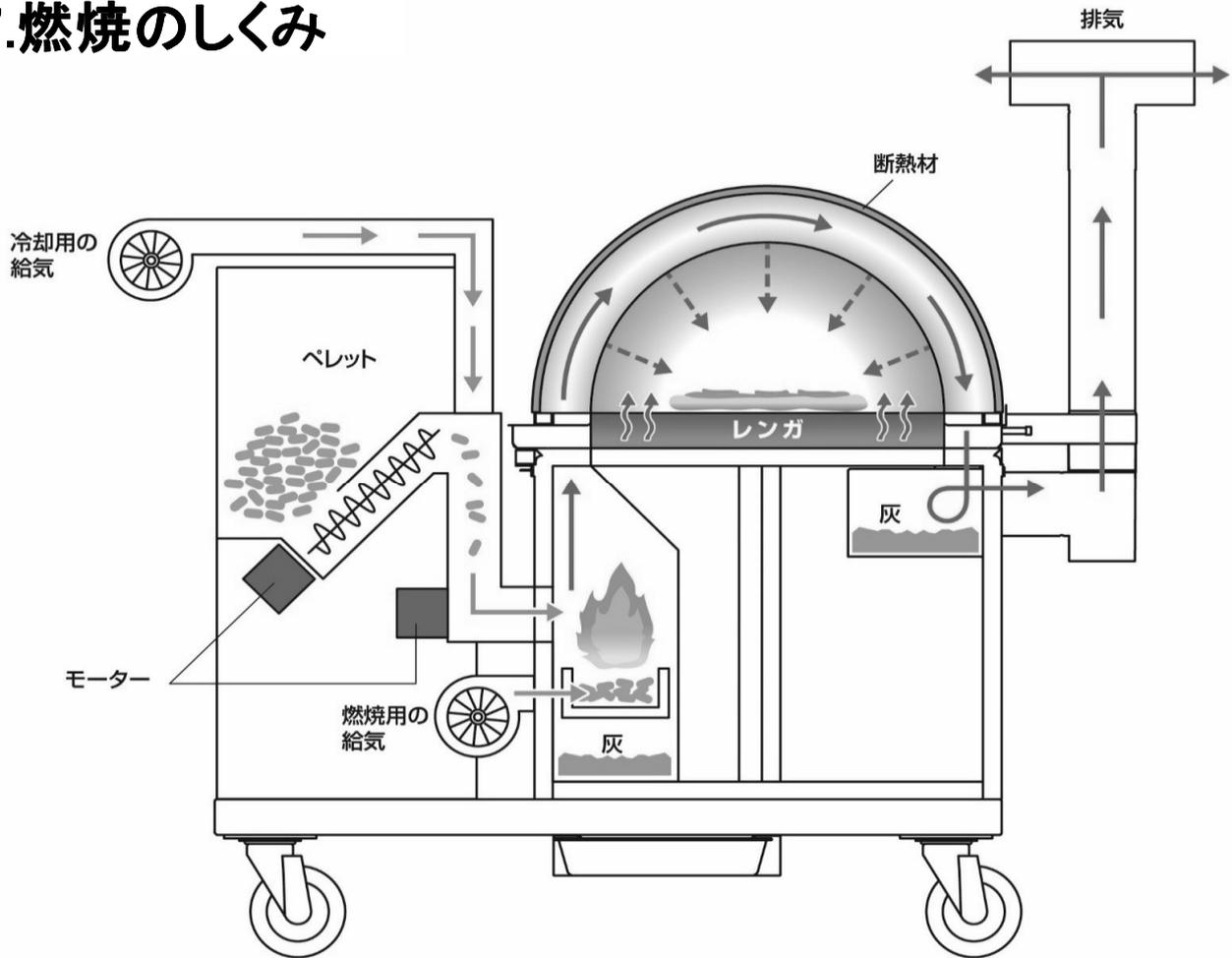
**② 燃焼ポットが燃え残りでいっぱいになっていませんか？(冷めたら確認してください)**

・燃焼ポットが正しい位置にセットされていないと完全燃焼できず、炭化状態のペレットが燃焼ポットいっぱいになり、消火(立ち消え)してしまいます。冷めたら正しくセットし直してください。  
・ペレットの投入量が多過ぎたり、燃焼しにくいペレットをご使用の場合も、同じ状態になります。  
ペレットの投入量や給気量を調節してください。

**③ Q2の①～④が原因でペレットが落ちてこないのではありませんか？**

Q1～Q3で、それでも解消しない場合は販売店へ連絡してください。

# 7. 燃焼のしくみ



SAIKAI ペレット窯 PGY16 仕様		
使用燃料	ペレット種類	木質ペレット(バークは除く、6~7mm対応) 使用ペレットによる設定調整は不要
サイズ	外形寸法 ※1	約W1600×H1550×D1030 mm (煙突・テーブル・移動ハンドル込み)
	重量	約 330 kg
構造	構造	燃焼炉・燃料タンク分離型・ドーム
	タンク容量 ※2	約 30 kg
燃焼能力	燃料投入量 ※2	最大 3kg/h (無段階調節)
操作方法	点火方式	手動点火 (点火作業は5~10分)
	温度調節	ペレットダイヤルにて、ペレット供給量を調節(無段階調節)
電力	電源	AC 100V 50Hz・60Hz
	消費電力	約 100 W
メンテナンス	灰除去	灰受けに灰が溜まったら(適時)
	排気ボックス	排気ボックスに灰が溜まったら(適時)
	T字管掃除	T字管内に灰が溜まったら(適時)
	保守メンテナンス	1年に1回、販売店による保守メンテナンスをお受けください。
使用環境 ※3		近くに可燃物が無いことを確認しご使用してください。 平坦な舗装面にてご使用ください。

※1 煙突、テーブルは脱着可能

※2 燃料により変わります。

※3 使用条件、使用環境を考慮し、関係省庁及び自治体の条例を遵守してください。

★本体付属品 ピザピール1本、掃除用ほうき

# 保証書

品名	ペレット窯	型番	PGY16
お買い上げ日	年 月 日		
保証期間	お買い上げから 本体1年間(消耗部品は除く)		
お客様名			
ご住所	〒 -		
	(電話)		
販売店			

※本保証書は、上記の各欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご記入の有無をご確認ください。



〒950-2264新潟県新潟市西区みずき野2-12-9  
電話025-239-1400

## 《保証事項・無料修理規定》

- 取扱説明書の注意事項に従った正常な使用状態で、保証期間内に故障した場合には販売店または弊社が無料修理いたします。
- 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合には、製品と本保証書をご提示または添付の上、ご依頼ください。
- 保証期間内でも次の場合は有料修理となります。
  - 本保証書をご提示されないとき。
  - 本保証書の所定事項の未記入、字句を書き換えられたもの及び販売店名の表示のないとき。
  - 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、公害や異常電圧による故障及び損傷。
  - お買い上げ後の輸送、移動時の落下等、お取扱が不適当なために生じた故障及び損傷。
  - 説明書に記載の使用方法、または注意に反するお取扱によって発生した故障及び損傷。
  - 改造またはご使用の責任に帰すると認められる故障及び損傷。
  - 消耗品の交換。
- 本製品故障またはその使用上生じたお客様の直接、間接の損害につきましては当社はその責に任じません。
- 本製品が、ご贈答で修理を依頼される場合、あるいはご転居後に修理を依頼される場合は、本保証書に記載された販売店あるいは弊社へご相談ください。
- 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
- 本保証書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

※この保証書は、本書に明示した期間、条件にもとにおいて無料保証修理をお約束するものです。従って、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについて、詳しくはお買い上げの販売店あるいは弊社までお問い合わせください。